

「令和の時代の滋賀の高専」構想骨子（案）概要① （ひとづくりとしての学びの方向性）

総務・企画・公室常任委員会 資料4-1
令和4年（2022年）3月9日
総合企画部 企画調整課

- 新高専を軸に、**人材育成**→**地域への技術実装**→**技術への関心・憧れ**、という好循環の創出に挑む
- **情報技術*****各産業分野**に通ずる学びに加え、多様な学びの機会を提供し、実践力も育む
- **1学科4コース制**で、1年次は混成学級、2年次からコース選択という学びの体系

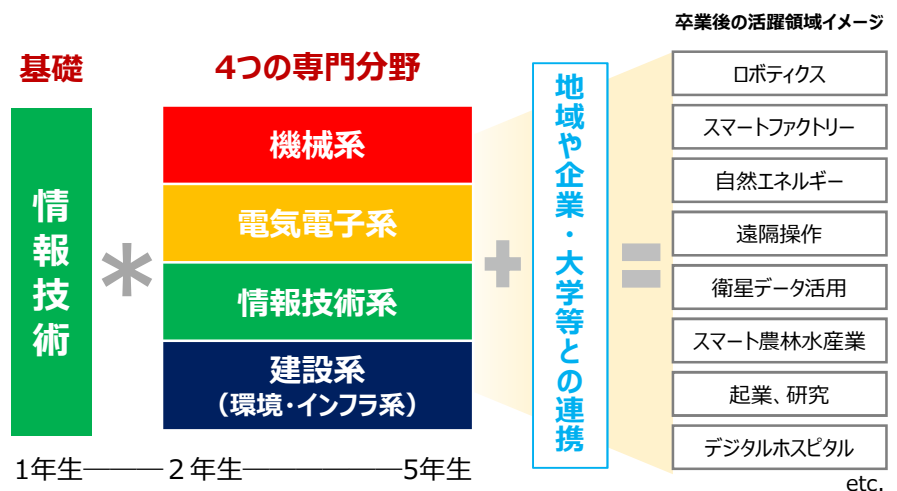
◆新高専の設置意図

目指す学校像

すべての人と地球を支え続ける技術を磨く学校



◆学びの専門分野（工学の実装領域はn次産業化）



◆学びの方向性

<h3>情報技術から</h3> <p>学びの分野を考えてみる</p> <ul style="list-style-type: none"> ●データサイエンス データに基づく課題発見力 ●プログラミング 考え方、アルゴリズム、最適化 ●価値の創造 AIによる自動化、データ活用 	<h3>各産業分野</h3> <p>に通じる学び、スキル</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ものづくり分野 ロボティクス、IoTなど ●インフラを支える分野 グリーンインフラ、防災技術等 ●その他の分野 他の教育機関等との連携 	<h3>滋賀・びわ湖</h3> <p>という地域ならではの学び</p> <ul style="list-style-type: none"> ●人と自然に寄り添う技術 Society5.0の先の社会 ●環境へのこだわり CO2ネットゼロをかなえる技術 ●進取の気性 学び続ける姿勢、行動意欲
---	---	--

学びの方向性

- 「情報技術」を柱に、課題を発見し、価値を生み出す力を養成
- キャリアを考えた育成コースで、多様かつ柔軟な選択肢を提供
- 人と自然に寄り添い、課題の解決に挑む技術者を育成

◆学びの拡がり

<h3>課外授業、留学等</h3> <p>5年という時間を活かす経験</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各種コンテストへの挑戦 ●海外留学、文化交流 ●部活動、地域活動 	<h3>インターンシップ等</h3> <p>地域・社会へのアプローチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域課題を実体験 ●地元企業と出会う機会 ●より現実に即した実践
<h3>卒業研究</h3> <p>技術やスキルの確立・応用</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ものづくり基礎力の確立 ●起業へのチャレンジ ●就職、進学に向けた研究 	<h3>リベラルアーツ</h3> <p>広く深くものを考える力、教養</p> <ul style="list-style-type: none"> ●年齢に即した文系科目 ●コミュニケーション力 ●世界的課題への眼差し

- 入学定員は120名、公立大学法人滋賀県立大学が運営。
- 高専に技術者交流・育成のハブ機能を備えることで、地域とともに高専自体もアップデート。
- 設置場所は、用地の広さや周辺環境、連携先等を勘案して来夏に決定、令和9年春の開校を目指す。

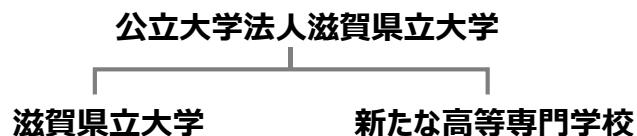
◆学校規模について

入学定員120名（3学級）、学校全体で600名
 （志願倍率2倍程度を想定）

教員数：約50名、職員数（事務・技術）：約40名

◆設置主体について

「公立大学法人滋賀県立大学」とする。



◆経費のイメージおよび場所の要件(案)

＜施設整備費＞ （寮を除く） 単位：百万円

A：施設整備費	7,200
B：設計監理費	360
C：その他経費	2,440
合計（A+B+C）	10,000

＜運営費＞ 単位：百万円

A：収入	200
B：支出	900
収支差額（A-B）	700

※全国類似高専における平均値から算出

＜場所の要件＞ 比較項目例

校地要件	土地の規模 土地の法令上の要件 土地の安全性
周辺要件	学びの場所としての魅力 周辺の理解 教育上のふさわしさ
連携要件	他の教育機関、産業界、 地域との連携
コスト要件	整備・運営費の低減
交通要件	通学の容易性

◆高専を技術者交流・育成のハブに

例えば・・・

- 企業の学びへの参画、大学連携講座等
- 技術系のリカレント教育
- 企業との共同研究、課題解決コンテストなど
- 技術系ならではの図書館デザイン
- 小中学生への「ものづくり体験」

…etc.

➔ **技術をテーマとした「広場」をつくることで、**
地域はもちろん、高専自体もアップデート



◆今後のスケジュール（PFI手法を導入）

